

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的に学ぶ力を育成するため、発問やワークシートのあり方を工夫し、授業に積極的に参加するよう促した結果、活用力が伸びている。
- ・少人数グループ活動や話し合い活動で、自分と違うものの見方に刺激を受け、高め合えた。

(2) 課題

- ・漢字語句の繰り返し学習で語彙を増やし、文法事項は復習を心がける。
- ・主体的に学ぶ力を伸ばすため、学び合いや友達の意見に耳を傾ける機会を増やす。
- ・200字作文や記述問題で具体的に自分の考えや体験・見聞を盛り込めるよう、日頃から書く機会を増やす。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	達成率は目標値・区・全国平均とも上回るが、基礎は3ポイント高い反面、活用が区平均を0.2下回った。		
第2学年	基礎・活用、観点別正答率とも目標値・区・全国平均を上回る。説明的文章の正答率が区平均を0.3ポイント下回った。	基礎・活用、観点別とも目標値・区・全国平均を上回る。連用修飾語などの文法は復習が必要である。 (第1学年時)	
第3学年	達成率は目標値・全国平均を上回るが、区平均を下回った。基礎も同様の傾向だった。活用だけは区平均を上回るが、目標値・全国平均には届かない。漢字の読み書きは全てに上回る。	基礎・活用、観点別正答率とも目標値・区・全国平均を上回る。説明的文章や文学的文章の読み取り△文章を書く△聞き取り▼漢字の書き取り▼。 (第2学年時)	基礎・活用とも平均正答率は目標値を上回るが、区全国平均正答率を下回った。文学的文章の読み取り、内容別正答率が区全国平均に届いていない。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
難しい語句の読みや連用修飾語、熟語の成り立ちの正答率が少し低かった。文法事項の復習が必要である。	聞き取りや文章の読み取り問題の理解はできているが、記述問題は考え方答え方に慣れておく必要がある。	授業規律を守り、暗唱への取り組みも前向きである。少人数で話し合い意見交換することにもなじんできた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字を書くことの正答率が低かった。小学校で学習した漢字も復習が必要である。	説明的な文章の正答率が低かった。特に内容の整理・解釈が苦手な傾向があり、文章構成の仕組みを確認する必要がある。	提出物を期日内に出せる生徒が多い。授業内でも積極的に参加している。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きについては正答率からも練習の成果が見られる。用言の活用など、文法事項の復習が必要である。類義語などを含めて、実際に文章や会話の中で使える語彙を増やす努力も必要である。	聞き取りや文章内容の読み取りへの理解はあり、さらに構成や展開にも目を向けられるようにする。資料を読んで記述する短作文の正答率が低いことから、書く頻度を今まで以上に高めることが必要である。	落ち着いた雰囲気を保ち、普段の授業への取り組みは前向きである。課題をやり遂げることにやや難がある。意欲をもたせることが必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字語句のワークシートを通し語彙を増やし、文法事項も繰り返し問題に取り組ませる。漢字ノートを定期的に課題にし、小テストを実施する。古典的文章に興味関心を持たせる。	文学的文章の読解ワークシートや、説明文の並べ替え学習などを工夫し、少人数で教え合いながら考えを深めるトレーニングを積ませる。記述問題でセリフなどを考えさせる。	ワークシートに真剣に取り組ませ、自信を持たせる。相談しやすい雰囲気を作る。暗唱に楽しんでチャレンジさせ達成感を味わわせる。読書マラソンで読書に親しむ土壌を作る。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元新出漢字を生徒同士で確認させ、どのような場面で用いられるか理解できるように取り組む。単元に関連のあるものを配布し、内容を理解させ、興味・関心を持たせる。	グループワーク等を増やし、考えを深めさせる。話し言葉と書き言葉の違いを理解できていないので、作文や記述問題に触れ、表現を工夫する機会を増やす。	良好な授業態度を継続させる。暗唱の期限を区分けすることでより内容を覚えることと同時に期限を意識させる。より発表しやすい環境を作る。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の読み取りや様々な場面でも、語彙に対しての感覚を磨けるよう仕向けていく。ワークやプリントへの取り組みだけでなく、自ら気づいて語彙を蓄えていけるよう工夫を凝らす。課題や小テスト、暗唱を積み重ねることから、漢字練習と古典への取り組みの意欲を掘り起こす。	文章を読み込むように読解を進める。周りの人の考えを聞き、自分の考えを深める作業を続ける。メモをとる習慣をつけ、見返して内容を振り返らせる。文章を書くこと、伝えることを繰り返しながら、苦手意識を減らし、作文に慣れさせていく。書く頻度を高めて記述力を伸ばす。	さらに授業内容に真剣に取り組ませ、さまざまな課題をやり遂げる達成感を味わわせる。意欲をもたせ、積極的に自ら進んで考える態度を養うことを目指す。受験期を迎える中でも、読書に親しむ時間を大切にしよう呼びかけていく。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・興味関心を持たせる教材や発問を意識することで、考える力を高め、知識の習得や考察力の向上につながった。
- ・ICTの活用を積極的に行うことで、資料活用や思考力の向上に一定の効果があつた。

(2) 課題

- ・定期的にグループワークを行い、生徒同士の意見交換を行っているが、ICTの活用により、さらに積極的に行っていく必要がある。
- ・社会科に苦手意識のある生徒に対しての個別の対応や配慮が行き届かず、学力の二極化という課題が残った。
- ・高学年になるほど、低学年時の学習内容の正答率が悪くなっている。家庭学習を含め学習習慣の定着を図っていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値を下回ったが、区平均正答率よりも0.1ポイント高かった。「日本国憲法」が著しく正答率が低かったのに対し、「世界の中の日本」は区、全国より5ポイント以上高かった。		
第2学年	地理・歴史分野ともに、目標値を下回り、区平均正答率も下回っている。	区平均正答率に分野ごとに差がでてしまった。「我が国の政治」以外は目標値をわずかに下回った。	
第3学年	地理・歴史分野ともに、目標値を下回り、区平均正答率も下回っている。「明治時代」は目標値を上回っている。	地理・歴史分野ともに、目標値を下回り、区平均正答率も下回っている。	区平均正答率に分野ごとに差がでてしまった。「我が国の政治」以外は目標値をわずかに下回った。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より低かった。	目標値より低かったが、区・全国平均正答率より高かった。	目標値をわずかに下回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに下回った。	目標値をわずかに下回った。	目標値をわずかに下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より低かった。	目標値より低かった。	目標値より低かった。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書に載っている基礎的な用語の理解を深め、小テストなどを通して知識を獲得する。また、資料集や地図帳を丁寧に活用する。	他の意見と自分の意見を比較することでこの観点の力を伸ばしていきたい。また、ICTの活用を通して、クラス内での情報共有をより積極的に行っていききたい。	分野ごとに自己評価や相互評価を行わせることで、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を習得できていない生徒も一定数おり、勝テストなどの反復練習を行っていききたい。また、資料の比較や活用の場面を多く作っていききたい。	生徒に考えさせる資料や興味を持たせる発問を心がけるとともに、ICTを活用することでより深い学びにつなげていききたい。	分野ごとに自己評価や相互評価を行わせることで、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を習得できていない生徒も一定数おり、勝テストなどの反復練習を行っていききたい。また、資料の比較や活用の場面を多く作っていききたい。	生徒に考えさせる資料や興味を持たせる発問を心がけるとともに、ICTを活用することでより深い学びにつなげていききたい。	分野ごとに自己評価や相互評価を行わせることで、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年で全国正答率を全項目で上回ることができた。
- ・定期考査では極端に低い生徒の割合は昨年度よりも低くなっている。
- ・学年によっては二極化の構図になっている。

(2) 課題

- ・全学年ともに「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の観点が低くなっている。
- ・定期考査でも「思考・判断・表現」の得点状況が良くない状況にある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全国正答率と比較すると、正答率は3.3ポイント高かった。		
第2学年	全国正答率と比較すると、正答率は4.4ポイント高かった。	全国正答率と比較すると、正答率は5.1ポイント高かった。	
第3学年	全国正答率と比較すると、正答率は0.8ポイント高かった。	全国正答率と比較すると、正答率は2.1ポイント高かった。	全国正答率と比較すると正答率は1.8ポイント低かった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率は2.5ポイント高かった。ただ、「整数の性質」、「平均・場合の数」の面では全国平均を下回っている問題もあった。	全国正答率と比較すると正答率は5.1ポイント高かった。ただ、「データの活用」の面では全国平均を下回っている問題もあった。	計算などすぐに取り組むが、文章問題など時間のかかる問題は諦めてしまう子も多い。また、評価物に関しても未提出や不備のある子もいて、課題がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率は5.1ポイント高かった。全ての領域で全国平均を上回っている。	全国正答率と比較すると正答率は2.9ポイント高かった。「1次方程式」の問題で全国平均を下回っていたが、それ以外の領域で全国平均を上回っている。	日頃の授業態度や課題に取り組む姿勢、評価物は、昨年度よりもきちんと取り組む人数の割合は低く、課題である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率はほぼ同じであった。昨年度は「関数」の領域で全国平均を下回っていたが、2.1ポイント上回った。	全国正答率と比較すると正答率は2.5ポイント高かった。しかし記述問題で無回答の割合が高かった	日頃の授業態度や課題に取り組む姿勢、評価物は、昨年度よりもきちんと取り組む人数の割合は高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な問題を反復して行い、計算力の向上を目指す。	習熟度に応じた問題を選定し、合わせた指導を意識する。	習熟度別少人数授業を展開することで、それぞれのレベルに応じた学習内容にし、個々の目標を実現するために考え、発言することができる環境をつくる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な問題は比較的に高い水準にある。引き続き、基礎的な問題を反復して行い、計算力の向上を目指す。	方程式の単元では、より丁寧な指導が必要になってくる。多くの問題を解き、慣れていくことも必要になってくる。	習熟度別少人数授業を展開することで、それぞれのレベルに応じた学習内容にし、全員が同じ目標に向かって意見をもって考え、発言することができる環境をつくる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算力のさらなる向上が必須である。適宜プリント等で練習機会を増やす。	習熟度別少人数授業を展開することで、能力に応じた事象を用いて少しずつ学力の向上を目指す。また、根拠を示して説明する力を養う。	習熟度別少人数授業を展開することで、それぞれのレベルに応じた学習内容にし、個々の目標を実現するために考え、発言することができる環境をつくる。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2・3学年において同一集団の成長過程を追っていくと、理科の標準スコアは右肩上がりに伸びている。また、「思考・判断・表現」は目標値を上回るか、ほぼ同程度身についている。特に、「活用」「思考・判断・表現」の問いかつ解答形式が「記述」のものについて、授業内やワークなどで練習したものは目標値を15ポイント以上上回っていた。

(2) 課題

- ・全学年において「知識・技能」の定着に課題が見られる。特に前年度の1学期に学習した分野に課題が見られる。また、「初見のデータから考え、記述する問い」については目標値を10ポイント以上下回った。「既習事項の復習の機会を設け、他分野・他学年とのつながりを意識させる」「予想を立てて観察・実験を行い、結果から考察し、自分の言葉で表現する機会を設ける」等の工夫を行い、粘り強く指導をしていきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	観点別正答率でも領域別正答率でも、すべての観点・領域において目標値を大きく下回った。また、基礎・活用の問いであるかや、どの解答形式であるかに関わらず、目標値を下回った。 (第1学年時)		
第2学年	観点別正答率では、どちらの観点でも目標値を下回った。領域別正答率では、「粒子」は目標値を上回ったが、その他の領域では目標値を下回った。内容別正答率では、「植物の分類」において目標値を大きく下回った。 (第2学年時)	観点別正答率では、「知識・技能」の観点で目標値を下回った。領域別正答率では、「物質・エネルギー」は目標値を下回ったが、「生命・地球」では目標値を上回った。内容別正答率では、「水よう液の性質」において目標値を大きく下回った。 (第1学年時)	
第3学年	観点別正答率ではどちらも目標値を超えることができた。領域別正答率では、「エネルギー」のみ3.8ポイント下回った。内容別正答率では、電気分野の正答率が目標値を下回っている。 (第3学年時)	観点別正答率、領域別正答率で、すべてにおいて目標値を下回った。内容別正答率では、5つの項目で、目標値を上回ることができた。「音の性質」では、記述問題で目標値より、12ポイント上回っていた。 (第2学年時)	観点別正答率では、すべての観点で目標値を下回った。領域別正答率では、「物質・エネルギー」「生命・地球」の両方で目標値を下回った。内容別正答率では、「大地のつくりと変化」は目標値を上回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に目標値を下回った。特に、「物の燃え方」「蒸散」「月と太陽」「大地のつくりと変化」「電気の利用」に関する問題で目標値を大きく下回っている。	全体的に目標値を下回った。特に、「水溶液の性質」「電気の利用」「生物とかんきょう」「てこのはたらき」に関する問題で目標値を大きく下回っている。	観察や実験に意欲的な生徒が多いが、苦手意識があり、見通しをもって確実に作業できる生徒は少ない。経験も乏しく、理科と日常生活とのつながりに気づかない・知らない生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「植物の分類」が特に課題があった。全体として、基本的な知識の理解、力の矢印の作図についてが、しっかりと定着しておらず課題がある。	「光の性質・音の性質」「地震」の計算問題が大きく目標値を下回っている。これまで学習した内容を活用して、現象の仕組みを理解し、推測することに課題がある。「気体の性質」については、授業内での振り返りを繰り返し行った成果がでた。	実験や観察に積極的に参加したり、意見を共有したりすることができるが、自ら実験を振り返り身のまわりの出来事に関連づけて、さらに内容について深め、解決していく姿勢に課題がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均、都平均ともに上回っており、目標値と同じ正答率となった。特に「気象の観測」の分野においての基礎知識が定着していなかった。特にパスカルという単位についての理解が全然できていなかった。	目標値、区平均、都平均を上回っている。しかし、電流の分野において、目標値を下回っている問題があった。直列や並列のつなぎ方の違いを理解し、推測することに課題がある。その他の分野においては、学習してから時間は経っているが目標値を大きく上回る問題が多かった。	実験や観察に積極的に参加したり、意見を共有したりすることができる。また、その中でさまざまな事象に疑問のもち、学びを深めようとするところができる。授業では、自ら予想や仮説を立て、観察・実験を行ったり、仲間との対話を通して、課題を解決しようとする生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒観察・実験による体験的な学びの機会を増やす。知識が各分野・単元を超えてつながる声かけや学習の機会を増やし、既習事項を繰り返し使うことができるよう、授業展開を工夫する。知識を相互に関連づけてより深く理解できるよう支援する。	観察・実験を中心とした問題解決型学習を行う機会を設け、仮説を立て、見通しをもち、結果をわかりやすくまとめ、結果から考察し自分の言葉やモデル図で表現する活動を重点的に行う。考察の検討など、理科の見方・考え方を働かせ、協働して問題解決する活動も行う。	生徒が明らかにしたくなる課題を提示する。日常生活や職業と学んだこととの関連を紹介する。学んだことを生かして現象や日常生活での出来事を説明する課題を設ける。学びを振り返る機会を設けてメタ認知を促し、「できた」「気づけた」の体験を個々に与える。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識や技能の定着が不足しているため、家庭学習をベースに1年生の復習を授業内でも取り組み始める。1年生からのつながりがある分野・単元に関しては丁寧に授業でも取り扱い、繰り返し既習事項について触れ、既存の知識と関連づけて学習を進めていく。	計算の解答に対する苦手意識を取り除くために、語呂合わせや計算練習を適度に取り組み慣れさせていく。また、学習した内容をアウトプットし活用できる場を増やしていく。	授業内で身近な事柄につながっている事例を紹介し、さらに自分で学習事項を拡げて考えさせる習慣をつけていく。また、その学習を拡げた生徒の内容を取り上げながら、学習の拡がりに対する面白さを感じさせられるような授業展開を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本的な知識や技能の定着が多く分野で不足している。実験・観察を積極的に取り入れ、計算問題なども基礎的な問題から繰り返し行い、全体的な知識・技能の定着を進める。個のレベルに合わせた課題を設定し、理科が苦手な生徒でも達成感を得られる機会を増やす。	観察・実験において、仮説や考察を自分の言葉で考え、表現する時間を設ける。内容ごとに、これまでの既習事項との関連性を考え、自ら仮説を立て、考えを深める時間を多く取る。	機械的な作業にならないよう日常の中にある科学について内容ごとに取り上げ、理解することの楽しさや面白さを実感させる。調べ学習や観察・実験等の協働する機会を増やし、自ら考え、行動できるように支援する。

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年で全国平均を上回る成果
- ・「聞くこと」や「読むこと」の領域に強み
- ・記述式の改善傾向（学年が上がるごとに向上）

(2) 課題

- ・「記述式」問題の正答率が低い
- ・「思考・判断・表現」観点の弱さ
- ・「活用」問題における定着不足

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	すべての項目において目標値と区の平均正答率を上回っている。ただし、前年度の校内平均よりも正答率は低い。		
第2学年	校内平均は前年度59.1%→59.9%と緩やかに改善している。基礎”63.0%”に対して“活用”61.0%(校内)はやや低め。前年度と比較しても活用の伸びが限定的といえる。	ほぼすべての項目において、平均正答率が全国平均を上回っている。リスニング分野の正答率が特に高い。その一方で、ライティング分野の正答率は全国平均だけでなく、目標値を下回っている項目もある (第1学年時)	
第3学年	短い文（メールなど）を読み取ることはできているが、さまざまな文を読み取ることが低い正答率である。	全ての項目において、平均正答率が区や全国を上回っている。特に聞くことに関して特に高い正答率となった。(第2学年時)	多くの項目において、平均正答率が区や全国の平均を上回っている。英文問題で正答率が低い箇所があったため、改善するために意識して指導にあたる。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均を上回り、目標値も大きく超えている。語彙・音声理解・文法構造の定着が進んでいる。特に「単語の意味理解(93.0%)」「アルファベットの読み(94.3%)」は高得点。	目標値・全国平均ともに上回るが、「日常会話の理解(74.7%)」「会話全体の理解(89.4%)」には若干のばらつきあり。英文作成（英作文：91.1%）は安定している。	高水準を維持。前年よりやや低下（前年度：93.1%）しているが、依然として全国・区平均を上回る。学習意欲や取り組み姿勢が良好と判断される。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
特に語彙・語法・文法などの定着が不十分で、書く活動でのミスや定着不足が散見される傾向がある（例：書く力 52.9%、作文分野で得点が低い）。	「書くこと」や「長文の読み取り」などにおいて、他の領域と比較して得点が低い傾向が見られる。思考の過程や判断の根拠を明確にすることを苦手とする傾向がある。	音読の課題や speaking など音声を伴う活動はとても意欲的である。その反面、知識伝達の場面では集中力を欠く傾向がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法項目によってできているところ、できていないところがある。はっきりとしている。	自分の考えや意見を相手に伝えることはよくできているが、文の流れに合った英文を書くことを苦手としている。	相手を意識したコミュニケーションを取ったり、主体的に学習に取り組んだりする姿勢が身についてきている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語の読み・意味理解は良好だが、音声とスペルの一致に継続的な指導を行う。	日常会話の理解（74.7%）が他と比べてやや低いため、文脈に応じた意味理解・推測練習の充実が必要。	ペアワーク・発表活動、ICT教材を活用した個別的な活動を取り入れて、学習動機づけを高める工夫を継続的に行う。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書く活動後の添削タイム、モデル文提示、生徒の良文共有による正のフィードバックループ構築を図る。	表現活動を充実させ、能力向上を図る。またマインドマップやフローチャートなどの思考ツールを活用し、思考の過程を可視化させる。	ペア活動や発問を取り入れ、知識伝達の場面にも主体的に関われる工夫を行う。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新しい文法項目はもちろん、既習の文法項目にも触れながら、定着を図りながら授業を進める必要がある。	文や会話等の前後の関係をよく読み取りながら、自分の考えや意見を正しく伝えられるような練習を取り入れていく。	今後も相手を意識したコミュニケーションを充実させ、活動の機会を増やすことで生徒の主体性を高めていく。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2学期に行った合唱コンクールでは、ハーモニーのバランスを重視し、各クラス生き生きと表現することができた。
- ・歌唱や鑑賞において、歌い方の工夫や感じたことについて、自分の言葉で説明することができた。全員で合わせて歌う楽しさ、感動を味わいながら演奏できた。

(2) 課題

- ・表現活動の時間を最小限に留めながら、技能を高め、豊かな表現ができるようにする。
- ・鑑賞分野において、音楽の歴史的背景や、その曲で学ぶ基礎的内容を定着させる。

2 観点別分析

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・速度や強弱など、楽譜に記載されている基本的な音楽用語について理解できる。音符の名前や長さ、音の高さなど、読譜力には個人差が見られる。 ・歌唱の技能は、発声と音程の習得に個人差がある。	・歌唱では、楽曲の構成と曲想を捉える学習を行っているが、定着までにはいたっていない。 ・鑑賞では、知覚・感受を関連させて楽曲を捉えるようにしている。音楽的特徴と感覚的に感じ取ったことを関連づけながら鑑賞できるとよい。	・歌唱では、意欲をもって取り組もうとしている生徒が多く見られる。パート練習の進め方を定着させ、仲間とともに練習を進め上達する楽しさを味わわせたい。 ・鑑賞や楽曲分析の学習ではプリントを使い、理解に役立てている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽曲の分析では、曲想をテクスチャやリズムなどの音楽的要素の変化から捉えることができる。 ・歌唱の技能は、ほとんどの生徒が正しい音程で歌うことができるが、一部の生徒は音程をとることが難しい。響きのある声で歌うための発声には課題がある。	・表現分野において楽曲分析での知識をもとに自分なりに曲想を捉え、どのように表現するとよいか、考えることができる。よりよい表現活動のために、技能との関連を意識できるとさらによい。 ・鑑賞分野において、知覚・感受を関連させて楽曲を捉えることのできる生徒はいるが、難しい生徒も多く見られる。	・歌唱の場面では、意欲をもって取り組もうとしているが、集中力の低下が著しい生徒もいる。個に応じた声かけを行い、仲間とともに歌う楽しさを感じながら歌えるようにしたい。 ・鑑賞分野では、プリントにメモをとり、主体的に学習に取り組もうとしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽曲分析では、歌詞、強弱、曲想の関わりや、作曲者の意図を考え、楽曲のよさを感じ取れる生徒が多く見られる。	・表現分野において、歌詞と曲想の関わりを考え、内容を理解することができる。自らの知識をもとに分析を進め	・歌唱の場面では、意欲をもって取り組もうとしているが、自信のなさが表現活動にあらわれる生徒もいる。パー

・歌唱の技能は、正しい音程で歌う生徒が多い。響きのある声で歌うための発声には課題がある。	ていけるとさらによい。 ・鑑賞分野において、知覚・感受を関連させて楽曲を捉えることのできる生徒が増えてきている。	ト練習を経て、リーダーを中心に歌う楽しさを感じながら歌えるようにしたい。 ・鑑賞では、学んだ内容に関心を示し、生活に活かす生徒もいる。
--	---	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音楽用語は、楽曲の分析や歌唱を通して繰り返し学習していくことで、基本的知識が身につくようにする。 ・歌唱の技能では、2学期以降に行うパート練習で、小集団での関わりをとおして、響きのある発声ができるようになることを目標とする。	・音楽的特徴を捉えるために音程、リズム、テクスチュア等の音楽的要素を知識として学習し、思考を広げていけるように支援する。また、友達の意見を参考にし、自分の考えに生かすよう助言する。 ・表現分野において、フレーズの特徴など感受したことの音楽的理由を探る活動を取り入れ、表現の工夫につなげるようにする。	・歌唱の場面では、パート練習の進め方を定着させ、リーダーだけでなくそれぞれが意見を出し、意欲をもって練習できるようにする。 ・鑑賞や楽曲分析の学習では、プリントにメモをとらせ、楽曲や作曲家に興味・関心がもてるよう視聴覚教材を活用する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽曲分析では、音楽の諸要素から曲想を捉える学習をとおして、より主体的に発想できるようにする。 ・歌唱の授業では、腹式呼吸や頭声発声を常に意識して発声するよう促す。変声期を理解し、無理のない発声で歌わせる。	・表現の工夫について、既習内容と技能を関連づけて表現できるよう促す。 ・知覚・感受を関連させて楽曲を捉える学習を行う。個々の生徒の考えや思いを、パートまたはクラス全体で共有する。	・歌唱の場面では、パートリーダーの育成と、よりよい集団の中で活動する楽しさや充実感を大切にする授業づくりをする。 ・鑑賞では、楽曲に興味・関心がもてるよう導入を工夫し、学習のまとめでは曲のよさを感じ取ることができるようにする。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歌唱、鑑賞ともに楽曲について自分の考えがもてるように、楽曲の知識を習得させ、作曲者の意図と自分の考えを比較できるようにする。 ・歌唱の授業では、腹式呼吸や頭声発声を常に意識して発声するよう促す。	・知識を応用し、表現にどう活かすかについて、パートやクラス全体で共有し、内容を深められるよう支援する。 ・鑑賞分野において知覚・感受を関連づけて楽曲を捉えるとともに、音楽理論としての知識を関連させて題材を提示する。	・歌唱の場面では、パートリーダーが中心となって進められるよう支援する。生徒の主体的な取り組みの中で互いに学び合える雰囲気大切にすること。 ・鑑賞では、生活の中の音楽につながる取り組みにする。

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・校内で生徒の作品展示を積極的に行い、お互いの個性を認め合える環境作りを行うことができた。
- ・ICTの効果的な活用方法を模索し、デジタルと紙での使い分けやツールの理解を進め、教材や評価方法によって適切に活用することができた。
- ・生徒の実態や個別に適した課題を設定し、生徒がねらいを基に見通しを持って課題に取り組める環境作りを行おうと努めた。

(2) 課題

- ・生徒の実態や授業内容を踏まえ、ICTを活用した効果的な評価方法について模索する。
- ・より幅広い生徒の実態に合わせて教材研究を行い、教材や作品についての研究を深める。
- ・題材や教科などのつながりを踏まえた題材設定や教材研究を深める。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・小学校時に習った基礎的な知識を確認し、表現の幅をさらに広げるために、多くの素材や道具に触れさせ、習得させていく。	・生徒の発想を大事にしつつ、さらにより良いものにする為に、個々にあった声かけを行う。 ・鑑賞を深めるために、言葉として具体的に表現できるように促す。	・参考作品を提示するなど課題導入時の授業展開の工夫を行う。 ・振り返りシートを活用させ、自分を振り返り、次への課題につなげていく習慣をつけさせていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・今まで習得したものを深めながら、新たな素材や道具に触れさせ、それを応用する能力を養わせる。 ・パワーポイントを作成する等、ICTの活用を行い、わかりやすく伝える工夫を行う。	・様々な表現方法から生徒自身が選択し、試行錯誤ができる授業を行う。 ・形・色彩・構成などに意識を向けさせ、アイデアスケッチや言葉などで整理する活動を取り入れる。	・自分の思いを最後まで持続させ、創意工夫していけるような声かけを行う。 ・創作の意欲を高めるために、ICTを活用するなど相互の作品鑑賞を取り入れる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・見通しをもって表現活動できるように、時間を意識して計画的に制作に取り組ませる。 ・今まで習得したものを応用させ、新たな表現につなげていけるような活動の振り返りや提示を工夫して取り入れる。	・自分の取り巻く環境や自分の考えを振り返りながら、自分の思いを表現していけるように、ワークシートを工夫する。 ・様々な表現方法や作者の思いを深めていけるような鑑賞時間を多く取り入れる。	・制作途中にお互いの作品を見合う時間を設けることで、自己の作品を客観視しながら向上心を高めさせる。また自分の思いを表現することの喜びや楽しみを見いだせるような声かけを行う。

令和7年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的な学びを促すための、グループワークを積極的に取り組むことができた。
- ・タブレットを用いて課題提出を工夫し、調べ学習で深い学びを行うことができた。

(2) 課題

- ・問題解決能力を高めるための協同的な学びを促す教材設定が不十分と考えられる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(技) 木材加工では、平面から立体をイメージする力を身に付けられるよう課題を検討し、作品製作の手順を理解させる。また書画カメラ・スライド等の ICT 教材を使用し、作業の手元を観察させ、知識の定着を促す。 (家) ICT や実物等の教材を用意し、わかりやすい授業の工夫をし、製作では、各自動画を手元で確認させ、技能を習得させていく。	(技) 製作の単元のなかで、実習内容を深く思考する機会をつくるとともに、全生徒共通の製作課題にすることで、分からないところはお互いに教え合うようにし、協同的な学びの中で、問題解決能力を育めるような授業形態・教材設定にする。 (家) 衣服購入のポイントや、住まいの安全等の内容で思考判断につながる教材や発問を工夫するとともに、グループワークを設定する。	(技) 授業時間内に、説明・実習・片づけを行い、実習の時間規律を確立する。また毎授業で振り返りを行うことで、主体的に作品製作に取り組めるような工夫をする。 (家) 作品製作では時間を意識して、振り返りを通して、計画的に製作に取り組みせる。学習内容に興味関心を持たせる工夫を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(技) 電気の学習を通して、家庭でも安全に電気を利用することができるように理解させる。ラジオの製作を通して、知識と技術の定着を図る。また書画カメラ・スライド等の ICT 教材を使用し、作業の手元を観察させ、知識の定着を促す。 (家) ICT 教材を活用しわかりやすい授業を工夫し、食の学習を通して、栄養バランスの重要性を理解させる。	(技) ラジオ製作の後で、増幅回路について学習し、実際の作業にあった内容の学習をすることで、深く思考をする機会をつくる。また全生徒共通の製作課題にすることで、分からないところはお互いに教え合うようにし、協同的な学びの中で、問題解決能力を育めるような授業形態・教材設定にする。 (家) 食の知識を生活の中で活用し、自分自身を振り返り	(技) 授業時間内に、説明・実習・片づけを行い、実習の時間規律を確立する。また毎授業で振り返りを行うことで、主体的に作品製作に取り組めるような工夫をする。 (家) グループワークを取り入れ、意見交流を通して、積極的に生活に活かせる学習になるように工夫する。

	ながら深く思考をする機会を取り入れる。	
--	---------------------	--

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(技) キーホルダーの製作に合わせて、金属加工の方法を覚えるとともに、I C Tを積極的に使い、知識の定着を図る。また書画カメラ・スライド等の ICT 教材を使用し、作業の手元を観察させ、知識の定着を促す。 (家) 幼児の発達段階や生活・遊びの特徴を ICT 教材で示し理解を深めるとともに、製作においても ICT 教材を活用し、技能を習得させていく。	(技) プログラム制作の課題の処理を行わせ、情報の技術を通して、課題を解決する力を育成する。また全生徒共通の製作課題にすることで、分からないところはお互いに教え合うようにし、協同的な学びの中で、問題解決能力を育めるような授業形態・教材設定にする。 (家) 布絵本の製作や幼児の生活・遊びなどを通して習得した知識と照らし合わせて、自分の思考を表現する機会を取り入れる。	(技) グループワークを積極的に行わせて、主体的に授業に参加させ、意欲向上を図っていく。また毎授業で振り返りを行うことで、主体的に作品製作に取り組めるような工夫をする。 (家) 積極的に幼児を理解する意識を高めるために自身の幼少期や体験を比較できるような声かけを行う。

令和7年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全単元で学習カードを用い、基礎知識の習得や技能向上に繋がる振り返りに活用することができた。
- ・体力と持久力の向上を目指し、1つの学年で駅伝大会を実施した。それに向け、生徒主体の取り組み場面が増え、また長い距離を走ることへの抵抗がやや薄れてきた。
- ・投力に関して、ハンドボールやソフトボールなど投球動作を必要とする種目を通し、正しい動作の指導や確認ができた。

(2) 課題

- ・今年度実施した令和7年度東京都体力テストに関して、1学年は握力、50m走、立ち幅跳び、持久走、2学年は長座体前屈、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、持久走、3学年は握力、長座体前屈、立ち幅跳び、持久走に課題が見られた。これらの結果から、各種目の学習の中で基本運動に繋がる正しい体の動かし方や、必要な体力、筋力が鍛えられる補強運動を取り入れており、今年度の体力テストの結果を見て今後さらに検討していきたい。また、どの学年も20mシャトルランの得点に比べ持久走の得点が低い傾向があるので、目標タイムに向けたラップ設定等ペースコントロール力をつける学習もおこなっていく。
- ・自分や相手の動きを見て、改善点やつまづきをみつけ、相手に伝わる具体的な言葉を用い表現することが苦手な生徒が多い。アドバイス活動を多く設定し、考え、実行、振り返りを行い成長に繋げる必要がある。また、教師が指導する際も端的な説明を心がけ、生徒の活動時間を多く確保していく。

2 観点別分析

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各内容とも必要な知識を習得し、技能の高まりを目指すことができる。男女共に持久力の向上と男子の短距離走のレベルアップ、また、男女共に水泳の特に平泳ぎにも課題がある。	・マナーを理解し、その範囲内で技能の習得に向けて工夫し、積極的に表現活動を行っている。	・良いプレーや発表を見て学び合おうとする生徒が多い。 ・自己の課題を把握し解決に向けた取り組みを行おうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業で話した内容を理解している部分は多いが、記憶しておくことが課題である。 ・体力・運動能力は総括すると各種目で全国平均より低い。球技など様々なスポーツに取り組ませ、将来スポーツに積極的に行える土台を築く。	・自己の課題を解決しようと工夫する試みについて、考え、行動する態度が低いと感じる。また、自分の考えを伝えることにも課題を感じる。 ・個に応じた、道筋を考えた課題解決の方策を考えていくことや個別指導、教え合いの機会を増やしていく。	・保健の場面では、ポイントをまとめ記述ができる、発言を積極的に行えるなど生徒の2極化が顕著に表れている。 ・体育の場面では、苦手な生徒においてはポイントを明確に示すことで「わかった・できた」と感じさせ、積極的に運動に親しむ環境づくりを行う必要がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個々の能力に応じた技能向上を目指すことができる。 ・短距離は全国平均よりも高い。 ・男女ともに柔軟性と投力に課題があり、筋力に加えて物を遠くまで飛ばすための身体の使い方を正しく身に付け、打つ動作へと繋げていきたい。	・ただ動くだけでなく合理的な身体の使い方について理解し活動することで技能習得や他者の記録を伸ばす力を身に付けることを目指す。	・良いプレーや発表を見て学び合おうとする生徒が多い。 ・授業に早くやってきて自主練など取り組む生が多い。 ・運動場面ではほとんどの生徒が活動的だが、準備や片付け話し合い活動では二極化が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・それぞれの課題を把握できるような支援を行い、個人の能力を伸ばしていくことができるように学び合いを行うことが必要である。	・ICT や学習カード等を活用し、課題解決の方策を工夫できるように多くの支援を与える。	・学び合いを積極的に導入し、生徒が主体となって学習活動に取り組むことができる環境をつくる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識を身に付けるためには、私生活と関連付けて理解しやすく指導を行っていく必要がある。 ・技能に関しては、指導の際技のポイントを明確にしていく。また、客観的に自分の演技を見ることができるようタブレットを使用して理解を深めていく必要がある。	・論述やレポートの作成、発表を通じて、自分の考えを伝える。 ・グループでの話し合いを通じて他者理解に努め、まとめ、表現していく。 ・考え方がわからない場合は個別に指導を行い、サポートを行う。	・現在の自分の力を生かしながら、課題を見つけその解決にむけての練習や学習を考えていくという学習過程と生徒一人一人に身に付けてほしい力をしっかりと教え込んでいき、その上で自主的に学び方を身に付けていくという学習過程とを実態に合わせ取り入れていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・バレーボールやラケット種目で打つ動作を学ぶ前に、投フォームについて学び、そこから打つ動作に繋がることを理解できるようにする。	・毎時間の学習カードの振り返りやペア活動を通して自己の課題を発見し、その解決に向けて工夫し、積極的に表現活動を行っている。	・安全面に配慮し、可能な限り教師からの指示で動く場面を減らしていく。生徒自身が周りを見て、今自身がどうすればより良くなるか考え行動する習慣をつける。